

お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園：新潟県立国際情報高等学校
2. 実践した教科等：高等学校 保健体育科（保健）
3. 基にした学校園：お茶の水女子大学附属高等学校

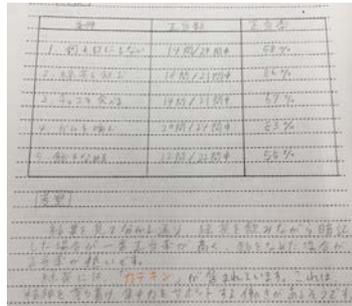
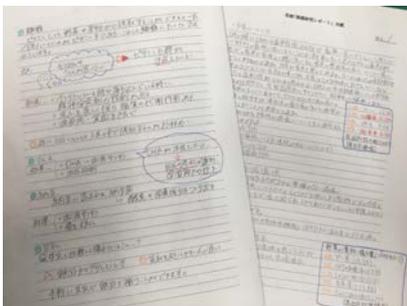
4. 基にした実践名：「人体実験レポート」

お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要 第60号（2014年度） 佐藤健太
『自己の健康や生活習慣と向き合うきっかけに - 「人体実験レポート」の実践-』、
pp.101-127より

5. 実践の概要

生徒に自身の健康や生活習慣と向き合わせるため、佐藤教諭の実践を参考に本校でも「人体実験レポート」を導入し、生徒に取り組ませてみました。

自分たちの知りたいことに合わせて実験内容・方法を考え、心身の変化や効果についてレポートを書いて提出させました。ただ、3週間個人で取り組み続けることは難しく、グループの仲間で同じ内容の実験に取り組み、それを合わせるという形をとりました。その後、結果や調べたことを模造紙にまとめ、授業時に発表を行いました。



夏課題のレポート テーマは「食事」「食べ物によって暗記力は上がるのか？」発表の様子

6. 実践してみた感想

自分の身体や健康、生活習慣に興味・関心の低かった生徒もこの課題には熱心に取り組み、自分や周りの人の生活習慣を見直すきっかけになったようです。授業（体育も含め）で学んだ知識・技能を積極的に実生活へ活かそうとする姿勢も垣間見られました。非常に効果的かつ生徒が楽しく主体的に取り組める課題のため、保健にとどまらず探究活動の一環として、また高校以外の他校種でも導入できる面白い実践だと思えます。（文責：丸山実花）